

長野県革新懇ニュース

2018年12月号
発行日 12月10日
会費 2,000円
購読料 3,000円(送料込)
振替 0510-3-15971

235

発行 日本と信州の明日をひらく 県民懇話会
(長野県革新懇) 発行人：山口光昭 編集長：高村裕
〒380-8790 長野市県町 593 高校教育会館内
TEL：026-234-1231 FAX：026-234-2219 メール：mail@nagano-kakushinkon.com

=====今号の主な記事=====

- 1面 小林瞳さんインタビュー
2面 1面続き、近現代信州の歴史回廊
3面 大北森林組合等補助金不正訴訟第3回裁判
読者の声
4面 「自由席」バンザイ 窪島誠一郎さん
映画評論『FOUJITA』内山到さん
漢字パズル

長野県革新懇

檢 索

**市民と野党の共同で
統一候補の擁立を**

こばやし　ひとみ
小林　瞳　さん

(「希望・長野ネット」共同代表)



1946 年、塩尻市生まれ。1968 年より東京で団体職員。1985 年に八坂村（現大町市）に移住し、農暮らし。現在、松本市在住。

味方の中に
敵を作らない

Q 市民と野党の共同が政治的に欠かせない力だと思いますが、先の衆議院選挙についてはどんな思いをお持ちなのか、そして来年の参議院選挙に向けてどう考えられているのかをお聞かせ下さい。

2016年の参院選では杉尾秀哉さんが統一候補になり、当選できたのは本当に良かったと思っています。あの流れがずっと続いていけばと願っていました。衆議院選挙ではご存知の結果になってしまいました。大変な汚点を残してしまったと思います。これは一体どういうことなのか、結局は私たち市民の力も及ばなかったのかなと思って非常に落胆したことも事実で

Q 市民と野党の共同が政治的

す。しかし、このことは絶対忘れてはいけないことで、これを教訓に次の参院選でも衆院選でも同じ轍を踏まないように私たちも知恵を出していかなければと思います。

の経緯と、今日に至る活動の内容はどのようなものでしょうか？

その点で、10月8日に信州市民アクションと野党4党が共同のテーブルに着く会議がありました。憲法問題、沖縄の米軍基地問題、原子力政策、アベノミクスにおける貧困と格差の問題の4点について方向性を確認し、おおその合意ができたことは一歩前進だと思います。その席上で、共産党の鮎沢委員長が、市民と野党が対等の立場で話し合うことが大事だとおっしゃったんです。今まで統一候補を決めるときには、どうしても政党が優先されがちだったのですが、その発言にはすごく私たちもやる気が出たし、好感を持つことができました。

んと一緒にやっています。でも、そもそものは2012年12月に衆院選があり、その9月くらいに相談のつてもらっていた弁護士、毛利正道さんが「これからは、やっぱり皆で共同していかないと駄目じゃないか」とおっしゃって、私たちもそれについて勉強会をしたんですね。でも突然のことであったので、時間が足りませんでした。あれよあれよという間に解散になって、そして自民党が圧勝し、第2次安倍内閣ができました。その時に、私たち有志が本当に危機感を持ち、やっぱりこれは共同候補を立てなくちゃいけないということになりました。

たこともない顔ぶれです。それから、歓迎されなかったと思うんですが、2度3度と行くうちに、熱い気持ちがかたまってもらえるようになったと思

いことでした。これを学ばない手はないと、その立役者で、オール沖縄で当選した衆議院議員の仲里利信さんをお呼びして松本で講演会をしましよ

安倍内閣の退陣を求め怒りの長野県民大集会

6.10

安倍内閣の退陣を求め怒りの長野県民大集会

今年の6月10日に開かれた「安倍内閣の退陣を求め怒りの長野県民大集会」で発言する小林瞳さん

なんとしても安倍政権の暴走を止めることが最大の目標です。ので、いちばん大事なことは、味方の中に敵を作らないことだと思います。寛容と許しの心を持って、さまざまの違いを乗り越えて目的を達成するために共に行動できた方がいいと思っています。ともすれば、同じ目的を持っていると思っても、ちよつとのことで仲間内で議論が感情的になっていがみ合うということが多々起きますよね。そういうことを避けることを心に刻んでいようと思っています。

13年の参院選からは、国政選挙で野党は統一候補で共闘してほしいと、「国政選挙で共同を進める長野県民の会」(愛称:「希望の種をとばそう会」という会をつくりまし

た。基本的人権を尊重して、誰の命も脅かされることなく安心して暮らせる社会を守っていききたいということで、思想・信条、政党などさまざまな垣根を超えて緩やかに幅広い人たちと繋がっていくことをモットーにして活動を始めました。団体に入っていない個人、市民一人ひとりも入れるような団体にできたらいい

ます。さらに、市民一人ひとりがちゃんとした意見を持って、討論できる場がないといけないということで憲法問題や原発問題、基地問題、いろいろ生活のことなどについて、白熱会議を5回ほどやりました。その時に、現職の自民党の国会議員も来たんですが、いきなりこれは「アカの集まりだ」と言われてびっくりしてしまいました。私たちはそれが政治活動とは思わずに、文化活動だと思っています。それでも、やっぱりだんだん政治的にならざるを得ません。

うということになり、その時に初めて各野党、民主党、共産党、社民党、緑の党の代表の方々とコメントターとして憲法学の成澤孝人さんに来ていただいたて、それが初めての市民と野党のつどいになりました。

私たちは大きな集会みたいなのことを開いた経験がなかったものですから、どうなるのか、ことかと思っていました。が、300人近い方が勤労者福祉センターにお見えになって、やっぱりどこかで声をあげないといけないんだと思いました。それと同時に、国政選挙

Q 「希望・長野ネット」の発足

県内の各野党に私たちの気持ちはどうしても聞いてもらいたいということで、それぞれ事務所に要請文を持って行きました。最初は、聞いて

を立てることを野党間で合意してもらえませんでした。が、14年の衆院選で、オール沖縄候補が沖縄全区で勝利したことは、私たちにとってはすごい

運動をしようということでは半年ぐらいかけて集めて、それをまた県の各野党の事務所にお持ちして協力を要請し

【2面に続く】

【2面に続く】



今年の6月10日に開かれた「安倍内閣の退陣を求める怒りの長野県民大集会」で発言する小林瞳さん